

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

数波のストで「答申」を粉碎し、中曽根を打倒する

（11/22）第7回 佐倉支部定期大会

十一月二十二日、第七回佐倉支部定期大会が機関区構習室に四十名の代議員・傍聴者を集め開催され、11・29ストへの意志統一をはかるとともに新役員体制を選出した。

新役員体制を確立

一体となつてスト貫徹＝勝利の展望をひらこう
—— 宮内支部長あいさつ ——
大会は、議長に石松代議員を選出、最初にあいさつにたつた宮内支部長は「佐倉は第一波ストで拠点にはならなかったが、津田沼・千葉転・外周区をつつみ、一体となつて断固ストライキを貫徹し、勝利の展望を切り拓こう」と力強く訴えた。
続いて、米賓のあいさつを成田労金の米本支店長よりうけ、さらに本部を代表して水野副委員長より「今大会の獲得目標は、第一に11・29スト貫徹の意志統一をかちとること。第二に、強固な支部体制を確立することだ。十万人首切りへの怒りをたぎらせ総決起しよう」とのあいさつをうけた。

服部・室岡執行委員より一般経過報告、会計報告をうけ、田中書記長より一九八五年度方針案の提起をうけ、質疑討論に入り、数派のストで答申粉碎・中曽根打倒をかちとろうとの闘う方針を満場一致で決定した。
新役員を選出したのち、組合歌合唱、宮内支部長の音頭で団結ガンパローを三唱して成功裡に大会を終了した。

新役員体制

- 支部長・宮内 正志・37・機関士
- 副支部長・小川 武・47・ "
- 書記長・田中 龍美・33・検査
- 執行委員・山崎 茂雄・27・機関士
- " 山本 茂雄・27・ "
- " 小川 信雄・41・検査

210名結集で大成功

勝浦地区集会は、十一月二十二日、十八時より勝浦市民会館において、組合員91名、家族組合40名、他単産労働者80名、計210名を結集し大成功をかちとりました。

「勝浦運転区廃止」「50名削減」の策動など許さない
—— 鶴岡支部長が挨拶 ——
集会は、鶴岡書記長の司会で始まり、主催者を代表して鶴岡支部長は「われわれをとりまく情勢は、分割・民営化に向けて、十万人にのぼる首切りが強行されるようとしている。勝浦支部について言えば、運転区そのものが廃止される。仮に存続したとしても50名もの組合員が首を切られる。そのような理不尽なやり方を許してはならない。本日の集会を、11・29第一波闘争勝利に向けた総決起の場としよう」と決意を明らかにしました。米賓の石井夷隅地区労議長は「現在地

11/22 勝浦地域集会

区労でも五千万署名を積極的に取り組んでおり、目標に近づいている。国民の財産をバナナのたたきうりのように勝手に処分させてはならない」とあいさつしました。

今こそ闘うとき、

団結こそ勝利への道
—— 中野委員長が講演 ——
続いて、本部中野委員長は、臨調の基本答申が、国鉄の赤字を理由に、国鉄の分割・民営化をうち出しているが、その赤字の責任は、全て政府、あるいは財界にあり、労働者・国民にはないこと。分割・民営化は、新たに国鉄を大企業が食いつぶす陰謀であること。その中で

働者は、三人に一人は職場を奪われようとしている。仮に残ったとしても労働強化・賃金引き下げ等の攻撃がかけられてくる。今闘わなくては闘う時はない。団結こそ勝利の展望を見つけたすカギであると強調しました。これをうけて、各代表者より決意が表明されました。
「われわれは、運転保安の立場からも全員遮光幕を下ろして闘ってきた。当局の選別を許さず闘う」と藤本乗務員会長。井上青年部長は、「今起たなければ闘う時はない。青年部は先頭で闘う」、峰島家族会会長は「おとうさんたちにしっかりやりやつてもらうために家族をしつかり守っていく」とそれぞれの立場から決意が述べられ、参加者全体で確認されました。最後に、勝浦支部一丸となつて闘う決意をこめて、支部長の音頭で団結ガンパローにより成功裡のうちに集会を終った。